

静岡新聞 2025 年 10 月 1 日 付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

物価上昇の流れが続いている。「この先、日本のインフレは沈静化するのか、それとも今のような物価上昇のトレンドは続くのか?」。講演会やセミナーなどで機会があるたびに、このような質問を投げかけてみる。

少し前までは、日本の物価上昇はいずれ沈静化するだろうという方に手を挙げる方が多かった。しかし最近になるほど、日本のインフレはまだ当分は持続するという方に手を挙げる人が増えている。世の中のインフレマインドが強くなっているようだ。

現実にもインフレ傾向が強くなっているのに、人々の反応がこのような変化をしているのは当然だろう。数年前までは、日本のインフレは輸入型であった。国際的な石油や食料の価格上昇や急激な円安で、日本の輸入物価が上昇した。それが日本国内の物価に

賃金上昇とインフレ持続

も転嫁されていったのだ。こうした動きは物価の大きな部分を占めるサービスなど国内産業の価格には転嫁しなかった。だから、日本の物価の上昇は全体的には穏やかなものだった。

この流れは少しずつ変化をしていった。インフレが輸入型から国内型にシフトしていったのだ。賃金上昇が始まり、多くの産業での人件費を引き上げ、広範囲での物価上昇が始まった。日本銀行が目標として設定している物価上昇率は2%であるが、現実のインフレ率は3%を超えるような状況である。

賃金が増えることは基本的に好ましいものといわれている。物価だけ上がって賃金が上がらなければ実質賃金は低下してしまう。それでは国民の生活は苦しくなるばかりである。物価が上昇しても賃金が増えれば生活も安定する。だから、物価と賃金の両方が上がっていくことを「物価と賃金の上昇の好循環」と呼んでいる。

もちろん、すべての人の賃金が増えているわけではない。年金受給者や低所得者の所得は物価ほどには上がらない。だからそうしたインフレ弱者を支援するような政策が必要となる。それでも賃金上昇は実質賃金を上げていくた

めに必要となる。

以上がこれまでの話だ。問題は、物価と賃金がともに上がっていくことを好循環と喜んでよいかどうかということだ。確かに賃金が増えることは好ましいことではあるが、それが物価を引き上げる要因となることは好ましくない。賃金が増えれば物価も上がるようなら、それは好循環ではなく、悪循環になってしまうからだ。

日本の労働力不足は深刻な状況だ。この人手不足の状況が近い将来に解消されるという見通しはない。賃金も上昇を続けると考えるべきだろう。だからと言って、賃金上昇を抑えるべきだという議論にはならないだろう。日本の賃金は、国際的に見ても極端に低い状況だ。まだまだ賃上げは必要だ。

賃金上昇と物価上昇の悪循環を断ち切るためには、物価上昇を抑えるような政策を強化するのが正しい道だろう。物価上昇を抑える最も有効な方法は金融政策を活用することだ。米国も欧州もそうした手法をとってきた。そうした面で見ると、日本銀行は金利引き上げにあまりにも慎重なように見える。物価上昇を抑えるためにも、そろそろ次の金利引き上げに動くべきではないだろうか。